

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.06
2013 June

発行者 琉球病院事務部長
藤田 博文

院長

村上優（むらかみ・まさる）
1949年生まれ、
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長。2002国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry（司法精神医学研究所）長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長（併任）を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOペルヤワル会の副会長として活躍。



基本理念

院長 村上 優

アルコール依存症断酒補助剤「レグレクト」について

今年3月にアルコール依存症断酒補助剤「レグレクト」（一般名アカンプロセート）が承認されて、5月より臨床に応用できるようになりました。わが国ではこれまでアルコール依存の薬物療法はシアナマイドやノックピンという嫌酒薬だけでした。嫌酒薬を服薬して飲酒をすると動悸や嘔吐、低血圧、気分不良などの激しい反応を起こし、そのために飲酒を抑制するというもので、実際はこの反応を十分に学習して飲酒を回避して、「転ばぬ先の杖」として利用することが目的でした。

今回登場したレグレクトは、断酒をしようと思っても酒が飲みたいという「渴望」が起きますが、その渴望を抑制することを主な目的としています。そのためにアルコール依存症断酒補助剤という性質を持っています。この薬を世に出す治験については、平成20年より琉球病院も第2相試験と3相試験に参加しました。琉球病院の治験対象者の断酒率は高く、全体の治験結果でも10～20%の断酒率の向上を図ることができました。久里浜方式アルコール治療や認知行動療法を駆使しても1年断酒率は30%程度であることを考えれば、レグレクトによる薬物療法の効果には期待ができ、アルコール依存に対する新しい薬物療法の幕開けとなりました。

レグレクトの使用に当たってはアルコール依存に対して、断酒を目的としたアプローチ（心理社会的治療）を行った後に使用することが求められており、ただ薬を服薬すれば飲酒が抑制されるわけではありません。その意味ではアルコール依存の専門的な治療が必要となります。琉球病院も新しいアルコール医療の展開を進めてまいります。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい児 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車/ 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟棟建替整備の動き
- 進捗状況：基本設計終了（現在実施設計中）
 - 準備工事（中病棟解体及び駐車場整備等） 平成25年5月1日（水）～7月31日（水）
 - 病棟完成予定 平成26年10月 作業療法棟完成予定 平成27年8月
- 映画上映「むかしMattoの町があった」 平成25年6月8日（土） うるま市民芸術劇場
対象：各市町村・福祉関係者、医療従事者
- 「チャーびら祭」 平成25年6月20日（木） 10：00～15：00 院内

教育・研修

- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)トレーナー養成コース研修会
平成25年6月10日(月)～6月13日(木) 4日間 院内研修棟
- 第3期院内認定看護師実務研修 平成25年6月10日～6月14日 5日間 研修先:肥前精神医療センター
- 第3回琉球病院ブリーフ・インターベンション研修会 平成25年7月3日(水)8:30～17:00 院内研修棟

● 地域医療連携室だより

・活動状況 当院では、精神科デイケアを行っております。デイケアとは集団での活動を通しリハビリテーションを行う場です。利用者の治療目的に合わせ様々なプログラムを運営しており、利用者は1日6時間をデイケアで過ごします。プログラムを通じ、対人関係の練習、生活リズムの確立、体力作りなど利用者の課題に取り組んでおります。また、就労を希望される利用者への相談や事業所への見学も実施し、デイケアをステップアップの場として利用いただいております。当院デイケアの送迎バスは名護市から沖縄市の区間を運行しております。デイケアに関してご質問、見学の希望がございましたら、当院デイケアまでご連絡ください。

お問い合わせ時間
8:30～17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通



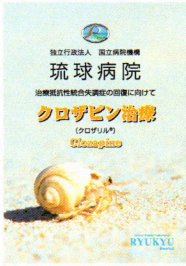
空床状況

5月20日現在

精神科病棟 3床	認知症 0床	アルコール 3床	児童思春期ユニット 2床
-------------	-----------	-------------	-----------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症に対して、平成22年に1例目の投与を開始し、全症例は81例となりました。平成25年4月の新規導入は5例で、治療経過も良好です。退院数も25例を超えました。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成25年4月の治療実績は4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

子ども心療科では、毎月1回院内勉強会と地域の方々との勉強会を実施しています。地域との勉強会は保健師、小学校教諭、保育士など様々な方にご参加頂き、発達障がいに関する知識や具体的な対応について、学ぶ機会になっています。事例検討会も実施しておりますので、興味関心のある方はぜひご参加下さい。また、今年度は行動療法研修会、動作法研修会の他、肥前精神医療センターの先生を講師に依頼し発達障がいに関する研修会や思春期に関する研修会を開催予定です。詳細はマンスリーや当院のホームページにてお知らせします。
【勉強会・研修会の申し込み・問い合わせ先】kenshu-child@ryu2.hosp.go.jp
心理療法室 野村



認知症医療

中I病棟では、5月16日(木)に作業療法士の皆さんの協力のもと、「こいのぼり会」を実施しました。こいのぼり会は、季節感を交えたレクリエーションで、こいのぼりの歌などの昔懐かしい童謡を歌ったり、曲に合わせて踊ったり、美味しいおやつをみんな一緒に食べたりと、五感を刺激するプログラムとして計画しました。

当日は会場の体育館に総勢30名の患者さんが集合し大盛況で日頃発語の少ない患者さんも、大きな声で返事をしたり、立ち上がって踊ったりと、笑顔いっぱいのお会となりました。



アルコール・薬物依存医療

今回「琉球病院アルコール病棟ものがたり」を、アルコール問題に関わる人々への示唆を目的とし、沖縄県内連携医療機関及び行政機関を中心に九州各県のアルコール関連施設、機構の精神科病院の178施設に送付を行いました。また、沖縄県内の新聞社等9施設に当院の取り組みとして説明をさせていただいたところ、沖縄タイムス、琉球新報に掲載され予想以上の反響があり連日、当院の地域連携室に電話での問い合わせや申し込みを多数いただきました。

今後、県内において「琉球病院アルコールものがたり」を一読した方が、周囲のアルコール問題で困っている方々に参考にされることがあれば幸いです。

〈お知らせ〉

- ★平成25年度「第3回 琉球病院 プリーフ・インターベンション研修会」を7月3日(水)開催します。
- ★平成25年5月19日(日)「第45回沖縄県断酒協議会全体例会」が開催され、院内外から73名の当事者・家族・関係者が参加し、自らの酒害体験や日々の回復の喜びを語りました。



包括的地域精神医療 (ACT)

平成24年度訪問看護件数が7000件を越えました。5チーム体制で1日平均29件の訪問になります。長期入院からの退院者あるいは、病状の安定しない利用者への訪問頻度を調整しながら地域で安定した生活ができるように日々利用者と共に考え、ご本人が望む生活が送れる事を目標にしています。平成25年度も地域移行が、スムーズに行えるよう院内・地域関係者との連携を進めていきます。今年度も、訪問看護チームをよろしくお祈りします。

臨床研究部の活動状況

【クロザピンによる症状改善度】～臨床精神医学研究部～

クロザピンを3ヶ月以上継続できた症例について、CGI-C※による臨床評価を行いました。症例数は、3か月後48例、6ヶ月後は33例、12ヶ月後が20例です。3ヶ月後は、著明改善21%、中等度改善33%と中等度改善以上の症例が5割を占め、6ヶ月後には、著明改善33%、中等度改善36%と中等度改善以上の症例が7割をしめました。12ヶ月後には、不変例がなくなり、全てが改善を示し、中等度改善以上の症例が75%に達しました。クロザピンを長期の投与をすることでじわりと全体的に改善を示していく印象です。

